

87 (こんな私に同情してか) 田舎(農家)の子供が、野菜を持ってきてくれるし
炊事のお手伝いが、うす粥を作ってくれたりもする

88 〈今の私は〉(夫婦仲睦まじい) 鶴が雌鳥を失ったときと同じように痩せ衰えてしまった。

89 空腹のため、鷓鴣えんすうを襲う鳶(= 鷓鴣)のように卑しくなった。

【十段】

91 崩れ落ちた(建物の)壁は、(屋根を伝って) 激しく滴り落ちてくる雨水をせきとめてはくれるが(大きな水溜りをつくっている)。

92 庭土はぬかるみになって、(いたるところに) 濁り水が流れ込んできている。

93 一方で(長く降り続いた雨もようやく上がり) 晴れた空には赤い太陽が照り輝き、

94 夕方になって日が沈みかけると、あおみどり色の幕をかかげたように太宰府の周辺の山々は、清清しい。

95 折に触れてこうした境遇に出会うと、心をむなしくすれば、(何もなくなるとした部屋に日の光が差し込むように)、自然に気も晴れてくる。

96 自由気ままに(書の世界に没頭し)、故人と語り合う中に、奥深い心境になることもある。

97 老子は、無為自然に淡々と生きたし

98 莊子は、名利など望まない偏屈な生き方をした。

99 人間の本性は不変不易の常道に背いてはいけないし

100 人生の根本は、本来のままに、ありのままに振る舞うべきだ。

【十一段】